



1. 自分だけのオリジナルのクリスマスブーツを作る /2. 草津市の子どもたちを招き、交流イベントが行われた /3. 作製したブーツの特別受付にはキビタン、草津市公認マスコットキャラクターの「たび丸」が駆けつけた /4. 草津市と伊達市の変わらない友好を願って /5. 子どもたちの思いが込められたブーツ約 250 点を展示

「滋賀県草津市との友好の輪」

11月29日から12月9日にかけて、市役所保原本庁舎大会議室に手作りのクリスマスブーツ約250点が展示され、来庁者の目を楽しませました。本市と友好交流都市の草津市はクリスマスブーツ発祥の地であり、2012年から草津駅西口商店街で「クリスマスブーツギャラリー」が開催されています。今回はそれぞれの市の子どもたちとの交流を深めるため、伊達市と初の同時開催。応募された約250点のオリジナルのクリスマスブーツは、12月18日に草津市でも展示され、優秀作品の合同表彰式が行われました。

市長日誌

「車社会と高齢化」

師走の恒例行事として、年末年始における飲酒運転の撲滅や犯罪防止などを目的とした「防犯・交通安全大合同出動式」がありました。

警察署長と啓発のため歩きながら今回は考えることがありました。と言つのも、昨年は秋に入ってから高齢者の交通事故が大変多く、それも被害者ではなく加害者としての重大な事故が多発したからです。高齢になれば、どうしても動作や反応が鈍くなるのは避けられません。その上、認知症は本人もまた周りの人も分からないうちに進行していきつたりしますから問題なのです。

警察署からは以前から高齢者の運転免許返納の話があり、当然、交通安全を担う市長としても、一定の年齢になれば運転免許返納を勧めるべきとは思いますが、現状の車（マイカー）社会で運転免許がなければ、通院、買い物など生活に著しく不便をきたし、簡単に「返納させます」とか「返納します」とは言えないのが現実です。

このため、当市ではデマンドタクシーを運行させていますが、これをもっと充実させなければならぬと考える一

方、中山間地域に住む高齢一人暮らしの人には、まちなかに高齢者シェアハウス（ひとつの家に他人同士が家族のように住むこと）を造って、そこに住み替えてもらうことはどうかと考えています。試みに、霊山掛田地区に6世帯の高齢者ハウスを造って実施していますが、入居された人からは「安心できる」という言葉をいただいていますので他地区でも進めていきたいと思います。そのためには生活用品を歩いて買い物に行く商店も必要で、このような考えが受け入れられるならば、まちなかの商店は郊外店とは違った存在感が出てくるのではないのでしょうか。

先日、妻が法事でお寺にお供えする果物やお花を用意するために近所の八百屋に行つたところ、「適当に見繕つてくれて助かった」とのことでした。商店主との会話によって、不慣れた法事のことも教えてもらえるのも郊外大型店にはないサービスではないでしょうか。

新年にあたって、高齢者が安心して運転免許返納をできるような環境を早急につくっていかなければ、と思つております。

